

製品名: LC3A(5G10)マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM13240**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:100-1:200
分子量	14,16kDa

抗原情報

遺伝子名	MAP1LC3A
別名	Microtubule-associated proteins 1A/1B light chain 3A (Autophagy-related protein LC3 A) (Autophagy-related ubiquitin-like modifier LC3 A) (MAP1 light chain 3-like protein 1) (MAP1A/MAP1B light chain 3 A) (MAP1A/MAP1B LC3 A) (Microtubule-associated protein 1 light chain 3 alpha)
遺伝子 ID	84557.0
SwissProt ID	Q9H492
免疫原	LC3A の合成ペプチド

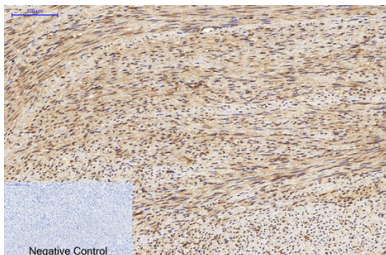
背景

MAP1A と MAP1B は、微小管と細胞骨格の構成要素との物理的相互作用を媒介する微小管関連タンパク質です。MAP1A と MAP1B はそれぞれ、重鎖サブユニットと複数の軽鎖サブユニットで構成されています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は軽鎖サブユニットの1つであり、MAP1A または MAP1B のいずれかと会合することができます。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つっています。バリエーション1の発現は多くの腫瘍細胞株で抑制されており、発癌に関与している可能性を示唆しています。[RefSeq 提供、2012年2月]機能:おそらくオートファゴソーム小胞 (オートファゴソーム) の形成に関与しています。PTM:前駆体分子は APG4B/ATG4B によって切断され、細胞質型 LC3-I を形成します。これは APG7L/ATG7 によって活性化され、ATG3 に転移され、リン脂質と共役して膜結合型の LC3-II を形成します。類似性: MAP1 LC3 ファミリーに属します。細胞内位置: LC3-II はオートファジー膜に結合します。サブユニット: 3つの異なる軽鎖 (LC1、LC2、LC3) は、MAP1A および MAP1B タンパク質と結合できます。組織特異性: 心臓、脳、肝臓、骨格筋、精巣に最も多く存在しますが、胸腺や末梢白血球には存在しません。

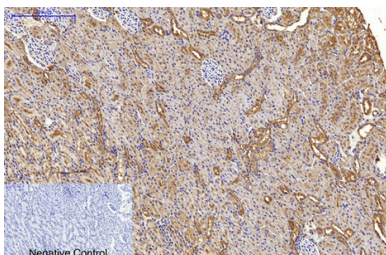
研究分野

シグナル伝達

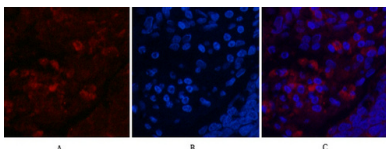
画像データ



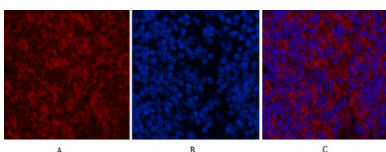
パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. LC3A マウスモノクローナル抗体 (5G10) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



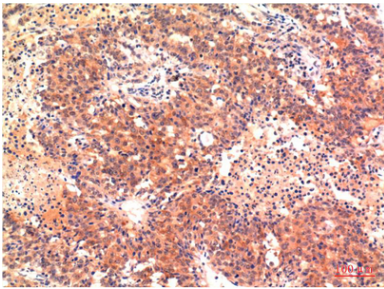
パラフィン包埋ラット腎臓組織の免疫組織化学染色。1. LC3A マウスモノクローナル抗体 (5G10) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



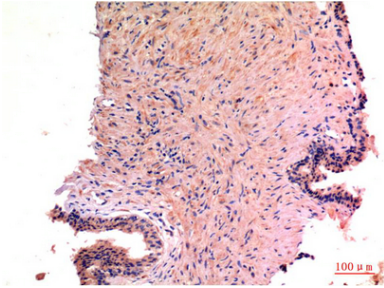
ヒト肺癌組織の免疫蛍光染色。1, LC3A マウスモノクローナル抗体 (5G10) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50分)。3, 図 B: DAPI (青) 10分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



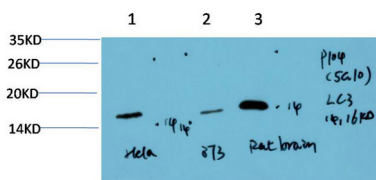
マウス脾臓組織の免疫蛍光染色。1, LC3A マウスモノクローナル抗体 (5G10) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50分)。3, 図 B: DAPI (青) 10分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



1:200 に希釈した LC3A マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学分析。



1:200 に希釈した LC3A マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト前立腺癌組織の免疫組織化学分析。



1) HeLa 細胞溶解物、2) 3T3 細胞溶解物、3) ラット脳組織溶解物の 1:1000 希釈 LC3A マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。